

2008年10月21日

三菱地所株式会社
社長 木村 恵 司 殿

社団法人 日本建築学会
会長 斎藤 公 男

三菱東京UFJ銀行貨幣資料館（旧名古屋銀行本店）の
保存・活用に関する要望書

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。日頃より、本会の活動につきましては多大なご協力を賜り、心より感謝いたしております。

さて、貴社におかれましては、標記建築物三菱東京UFJ銀行貨幣資料館（旧名古屋銀行本店、1926年12月竣工）を三菱東京UFJ銀行より買収されたとの由、伺っております。

三菱東京UFJ銀行貨幣資料館（旧名古屋銀行本店）は、別紙「見解」に示しますとおり、名古屋市における歴史的価値を有する極めて重要な建築物であるとともに、名古屋市の都心の骨格を形成した金融街の景観に風格と歴史の厚みを加える貴重な遺産でもあり、名古屋市の都市景観重要建築物にも指定されております。また、東海地方の近代建築に大きな足跡を残した建築家・鈴木禎次の代表的な建築作品でもあります。

本会では、標記建築物につきまして、2001年7月25日付で、当時の所有者（株式会社東海銀行）に対して、「旧中央三井信託銀行ビル（旧名古屋銀行本店）の保存に関する要望書」をお渡し、取り壊す考えのない旨のお返事をいただきました。貴社におかれましても、引き続き、この建築物の建築的価値などをご理解のうえ、今後とも、このかけがえのない建築物を後世に伝える保存・活用をご検討いただけますならば、誠に幸いに存じます。

なお、本会は、標記建築物の保存・活用について、可能な範囲でお手伝いさせていただきたいと考えておりますことを申し添えます。今後とも、すぐれた由緒ある建築物と良好な環境の保存のために、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

敬具

三菱東京UFJ銀行貨幣資料館（旧名古屋銀行本店）に関する見解

社団法人 日本建築学会
建築歴史・意匠委員会
委員長 初田 亨

名古屋市中区錦2丁目20番地25に所在するこの建物は、名古屋銀行本店として、1926(昭和元)年12月に竣工した。その後、幾多にもわたる銀行の再編により、この建物はいくつもの銀行の本店、支店を経て、2002(平成14)年からUFJ銀行貨幣資料館として活用され、その後も三菱東京UFJ銀行貨幣資料館と名を変えて、使用されている。

建物は、地上5階（一部6階）地下1階、延べ床面積約4,700㎡、鉄骨鉄筋コンクリート造で、正面にジャイアントオーダーが並ぶ銀行建築としての風格を持った建物である。設計は、当時の東海地方を代表する建築家鈴木禎次がおこない、施工は竹中工務店が担当した。

1) 建築的評価

この建物は、以下の4点の理由により、名古屋に現存する近代建築の中でも極めて優れた建築として評価されている。1点目、様式・意匠の点について、正面を低層(基部、1階)・中間層(中間階、2~4階)・上層(屋階、5階)、という具合に三層に構成し、中間階部分に6本のジャイアント・オーダーを並べた外観は、当時、世界的に流行していた銀行建築の外観である。しかしながら、現在、名古屋市内で現存しているこの時期の銀行建築は、この建物の他には2件あるのみであり、この建物は当時の銀行建築を伝える存在として重要である。2点目、構造・材料の視点について、この建物は、名古屋市内に現存する鉄筋コンクリート造・鉄骨鉄筋コンクリート造建築として、初期の建物である。3点目、平面・用途・機能について、正面中央に玄関を設け、1階に営業室・客溜りを配し、その奥に金庫を置くという平面構成、さらに、現在は天井が張られているが、営業室の上部を吹き抜けとし、吹き抜け周囲に廊下・ギャラリーを廻す構成は、当時の銀行建築の典型的な手法である。4点目、設計者に関わる点として、設計者の鈴木禎次は、名古屋を代表する建築家であり、この建物は、彼の代表的作品と言われている。しかも、彼は、銀行建築を得意としていたが、現在、彼が手がけた銀行建築は、ほとんど残されておらず、この建物は鈴木禎次の設計した銀行建築でも代表的なものである。また、この建物は、東京・丸の内の三菱煉瓦街の建設に大きな役割を果たした曾禰達蔵が設計顧問を務めている。

2) 歴史的評価

この建物は、名古屋における経済の発展を示す銀行建築として歴史的、文化的に貴重な存在である。この建物が面する名古屋・広小路は、17世紀から19世紀末まで名古屋の経済の中心であった本町通・伝馬町筋に代わって、20世紀になると、名古屋の経済の中心地となった地区である。この建物をはじめとして1920年代から1930年代にかけて、この広小路には多くの銀行が軒を連ねたが、この建物はその中心的存在となった。戦後、多くの銀

行建築が建て替えられた中で、現存するこの建物は、名古屋の金融街の形成と経済の歴史の変遷を示す貴重な建物である。

3) 都市景観およびまちづくりの視点からの評価

この建物は、名古屋の目抜通りである広小路と織維問屋街の旧長者町が交差する重要な場所の一角を占める重厚な建物で、都心の景観を形成する上で貴重な建物である。そのため、名古屋市都市景観重要建築物の第1回（1989年）の指定建築物となっている。そのため、まちづくりの視点から、この建物は、まちづくりの新たな資産として活用できる可能性を持っている。

以上のように、三菱東京UFJ銀行貨幣資料館（旧名古屋銀行本店）は、建築学的に極めて価値の高い建物であり、また、歴史上、さらに都市景観、まちづくりの視点からも価値ある建物である。活用可能な建物といえるので、価値を生かした保存・活用が期待されている。



（撮影：西澤泰彦氏）